

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第2学年 「国語（三省堂）」

98時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点
1	Cウ	学びの扉をひらく	名づけられた葉 【詩の構成】	1	・「読み方を学ぼう」を参考に、詩に込められた思いを捉え、自分なりに朗読することを中心の活動とする
	Cイウ		小さな手袋	4	・登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠をもって自分の考えをまとめさせる
2	伝イ（イ）	1 情報を読み解く	ことば発見1 類義語・対義語・多義語	1	・確認できるような問題を用意し、家庭での課題とし、後日確認する
	Cイウ		人間は他の星に住むことができるのか 【段落の大小】	4	・文章の構成や、事実と考への示し方に着目して、説明の仕方の特徴を中心に指導する
3	Aイウ 伝イ（オ）	1 情報を読み解く	資料や機器を効果的に活用する プレゼンテーション	4	・課題は社会生活の中から教師側からいくつか提示し、資料や機器を用いて、構成や展開を考えて話すことを中心の活動とする（状況によって時期を入れ替える）
	伝ウ（アイ）		漢字のしくみ1 熟語の構成・熟字訓	1	・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する
4	Cアウ	2 ことばを磨く	短歌の世界／短歌十首	3	・「短歌の世界」を参考に、「短歌十首」から印象に残った短歌の鑑賞文を書くことを単元のゴールの姿とする ・「短歌十首」は、資料集等を利用して、鑑賞文を書くヒントになるような説明を加える程度とする
			読みたくなるしくみを工夫する 創作文	4	・作品例を参考に、作品の魅力や特徴が効果的に伝わるように書くことを中心の活動とする ・観点を教師が示し、互いの物語を読み合う
5	Bウオ	2 ことばを磨く	文法のまど1 用言の活用	2	・224ページを基に、活用は規則的に変化すること（活用形）、いくつかの種類があることを指導する （→参考：県教委オンラインサポート授業） ・「確認しよう」は家庭での課題とし、後日確認する
	Cカ		[読書] 見えないチカラとキセキ 読書活動 本の帯・ポップづくり	2	・一読し、あらすじを捉え、簡単な感想をまとめた後、講演録の特徴について理解させる ・学校図書館を活用して、共生やスポーツをテーマにした本を選び、ポップ（帯）を使って紹介する（本を読むのは家庭での課題とする）
7	Cエ	3 視野を広げる	壁に残された伝言	4	・「伝言」という表現に着目させ、筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもたせることを中心の活動とする（一読した後、「学びをひろげよう」に取り組むのもよい）
	Bア 伝イ（ウ）		漢字のしくみ2 熟語の読み	1	・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する
8	Bイオ	3 視野を広げる	推論と対話で考えを広げる 主張文	5	・意見を支える根拠、反論と反論を踏まえた考えを中心に指導する ・互いの文章を観点にそって読み合う活動を取り入れる
9	Cエ 伝ア（イ）	古典に学ぶ	枕草子・徒然草	4	・詳細な読みではなく、現代の考えとの比較を中心に指導する ・注釈を参考に大まかな内容を捉え、登場人物の行動に着目して自分の考えをもたせる
10	Bウオ		表現ブラザ①「超訳」に挑戦	2	・例を参考に、書きぶりや形式を工夫して書かせる（基となる作品は、教師側でいくつか選び、現代語訳を含めて提示する）
11	Cイ 伝ア（アイ）		平家物語 【物語の転換点】	4	・古文独特のリズムに慣れるよう音読させるとともに、当時の時代背景やものの見方を考えさせる
	伝ア（アイ）	漢詩の世界 古典情報 漢詩の形式	4	・漢詩特有の言葉遣いやリズムをおさえ、当時と今の人の気持ちを比較させる	
12	書写	行書の特徴		3	・点面の省略、筆順の変化を中心に指導する
13	Cイエ	4 分析的に考える	動物園でできること 【例示】	4	・文章全体と部分との関係や例示の効果や筆者のものの見方を捉えた上で、自分の知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめることを中心の活動とする
	伝イ（ア）		ことば発見2 方言と共通語	1	・方言と共通語のそれぞれのよさをおさえる
14	Aアエ	4 分析的に考える	異なる立場や考えを尊重して パネルディスカッション	4	・生徒の実態にあった身近なテーマを挙げ、役割を決めてパネルディスカッションを行い、方法と特徴を中心に指導する
	伝イ（ウエ）		文法のまど2 助詞・助動詞	2	・244ページを基に、助詞と助動詞の種類と働きを指導する（参考：県教委オンラインサポート授業） ・「確認しよう」は家庭での課題とし、後日確認する

15	書写	漢字と仮名の調和		3	・行書を中心に漢字と仮名の調和を中心に指導する（手紙と関連させてもよい）
	Cイ	5 読みを深め合う	大阿蘇	1	・表現の特徴に着目して朗読することを中心の活動とする
	伝イ（ア）		ことば発見3 敬語の意味と種類	1	・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する
16	Cイウエ		走れメロス 【視点人物】	5	・人物の描写や会話、心の中の言葉に着目して、大体の流れをつかみ、「メロス」の行動や考え方で共感できたところやできなかったところを交流させる
17	書写	楷書と行書		2	・楷書と行書の使い分けについて中心に指導する
	Cエ	6 思いを伝える	達人のことば 宮大工 西岡常一・彫刻家 外尾悦郎	3	・二つの文章の共通点と相違点に着目することに重点を置いて指導する ・筆者の考えを踏まえ、仕事や生き方について自分の考えをもたせる
	Bイエ		わかりやすく、心をこめて書く 手紙	4	・手紙や封筒の書き方を指導し、学校行事等と関連させて身近な人に向けて手紙を書かせる
18	Aオ		表現プラザ② 対話劇を体験しよう	2	・台本の空欄を自分たちで考え、短い時間で対話劇を行う（体験させることをねらいとする）
19	C	7 つながりを考える	ポテト・スープが大好きな猫	4	・1年間の「読むこと」のまとめとし、生徒の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する（海外文学であることは触れる）
	A B		ふるさとを見つめ直す（※） 地域情報紙	7	・1年間の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のまとめとし、生徒の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
	書写	一年間のまとめ		2	・（※）と関連させる（地域情報紙にまとめる際の表紙等）とよい

【時間数の精選方法（例）】

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・各領域ともに、複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、単元1「人間は他の星に住むことができるのか」では、指導事項イの「文章全体と部分の関係や例示の効果」を中心に指導し、単元4「動物園でできること」では、指導事項エ「文章に表れているものの考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ」のために、互いの意見を交流させる指導を行います。「書くこと」、「話すこと・聞くこと」も同様の考え方です。

○小単元をまとめて指導したり、家庭での課題にして補ったりする

・「漢字のしくみ」「ことば発見」「文法のまど」については、まず、指導内容が既習事項なのか、新しい内容なのかを確かめます。新しい内容の場合、あわせて指導できる内容があるかを考えます。練習問題については、教科書巻末の問題やワーク等を家庭の課題とすることで、授業時間の削減が可能となります。なお、家庭での課題とする場合、生徒の達成状況を把握し、個への支援が必要なこともあります。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「読むこと」オ（※）になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。また、「読書」「読書活動」では、学校図書館を活用し、家庭での読書を促し、幅広い読書をさせることが可能となります。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導については、中学2年生では、20単位時間程度行うものとあります。三省堂では、地域情報紙を作成したり主張文を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば、地域情報紙の表紙の書き方や原稿用紙の書き方を通して、配置・配列や漢字と仮名の調和といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を10時間（50%）で作成しています。）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や生徒の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。

※本資料は、中学校学習指導要領（平成20年9月）によって作成しています。